

北ア広 20 ご第 7 号  
平成 20 年 6 月 16 日

白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会  
会長 宮田温巳 様

北アルプス広域連合  
広域連合長 牛越 徹

### ごみ処理施設についての公開質問状への回答

平成 20 年 4 月 28 日付でいただきました「ごみ処理施設についての公開質問状」に対する回答を下記のとおり送付いたします。

#### 記

1. 設問 3 において、白馬の魅力として観光客の 82%が「自然景観」を挙げており、その次に「澄んだ空気」を挙げています。この観光客の気持ちをご理解いただけますか。

#### 回答 1.

白馬村に限らず、大町市、小谷村も美しい景観を後世まで残していくことが大切な使命であり、周辺環境と調和した施設づくりを進めると共に、地域の皆様に受け入れられる施設を目指すことについては、「ごみ処理施設候補地に係る住民説明会主な質問に対する広域連合の考え方」でご説明したとおりです。

観光客の皆様は白馬の魅力として挙げていただいた「自然景観」「澄んだ空気」については、私共も同じように認識しております。

2. 設問 5 において、ごみ焼却施設の建設に観光客の 80%の方が否定的です。「止むを得ない」を含めても肯定的な意見は 10%です。この事実を受け入れていただけますか。

#### 回答 2.

アンケート調査の説明において、回答を誘導する意図があると思われるため、このアンケート調査結果については、信頼性に疑問があります。

今回のアンケートの内容及びご意見は受け止めた上で、ごみゼロが実現できない現在、焼却施設は必要不可欠な施設であることや施設建設にあたっては周辺環境や景観への配慮等について十分ご説明し、理解を得られるように努めて参ります。

3.設問 7 において、ごみ焼却施設の建設によって、65%(無回答を除くと 73%)の方が白馬の魅力が損なわれるとし、損なわれないとする観光客はわずか 6%です。そして損なわれるのは「自然景観」「澄んだ空気」そして「村の雰囲気」としてあります。

これが観光客の意見です。

これをどのように受け止められますか。

#### 回答 3.

私共としましても、「自然景観」と「澄んだ空気」が白馬村の財産であることについては十分認識しておりますが、適切な公害防止対策を実施し、周辺の雰囲気にも馴染む外観とすることにより、自然景観や澄んだ空気、景観に配慮した施設とする事は可能であると考えています。

すでにお示ししたパース図は最終案ではありません。皆様のご意見を伺いながら、より景観に調和した施設となるよう検討いたします。

4.このアンケート結果から分かりますように、観光客はごみ処理施設の建設に反対であり、観光客から見て白馬の魅力やイメージが損なわれるわけですから、ごみ処理施設の建設は観光客の減少をもたらすことは明らかです。それでも連合長は、観光客への影響はないとお考えですか。影響はないとするならその客観的な根拠をお示してください。

#### 回答 4.

ごみの排出量をゼロにできない現状では、私たちは、広域圏内で出されたごみは、広域圏内で適正処理することが原則であると考えております。

ごみ処理場の建設は、観光客の減少に直接つながるものとは、考えておりませんが、仮に観光業の皆様が白馬の魅力やイメージが損なわれるとの心配があるとするならば、影響を最小限に食い止めるよう、公害対策や景観に十分考慮した施設としてまいります。